

平成 23 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 2 号

病虫害名： チャトゲコナジラミ

Aleurocanthus camelliae Kanmiya and Kasai

対 象： チャ

1. 特殊報の内容

チャトゲコナジラミの発生を都下で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 2011 年 9 月中旬、都内多摩地域の茶園で下位葉の葉裏に本種らしき幼虫及び卵、新葉付近で成虫を確認した。なお、すす病は発生していなかった。
- (2) 採集した幼虫及び成虫を（独）農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所金谷研究拠点を通じて久留米大学比較文化研究所 上宮健吉博士に同定依頼した結果、本種であることが判明した。

本種は 2004 年に京都府のチャで初めて確認されて以降、ミカントゲコナジラミのチャ系統として現在までに 13 府県で発生及び被害が報告されてきたが、2011 年 3 月に新種として登録された。

3. 形態（第 1, 2 図；成虫・幼虫・卵）

- (1) 成虫の体長は雌約 1.3mm で、雄は雌よりやや小さい。前翅は紫褐色で不整形の白斑があり、体は橙黄色であるが白粉で覆われており、外観は灰色に見える（第 1 図）。
- (2) 孵化幼虫は淡黄色で移動できるが、定着すると光沢のある黒色になり 4 齢を経て成虫になる。老齢幼虫は長さ約 1 mm で周囲に白色口物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する（第 2 図）。
- (3) 卵は長さ 0.2mm、黄～褐色の勾玉状で、基部には短い柄があり葉裏に産卵される（第 2 図）。

4. 生態

- (1) 幼虫は下位葉の葉裏に生息し（第 3 図）、成虫は新芽によく集まる。成虫の寿命は約 4 日と短い。黄色に誘引されるため、黄色粘着トラップで成虫の発生が確認できる。
- (2) チャの他、サカキ、ヒサカキ、サザンカ、シキミ等にも寄生する。

5. 被害

- (1) 成虫及び幼虫によって葉が吸汁加害される他、幼虫が排泄する甘露により葉のすす病が誘発される。また、成虫の発生が茶葉摘採期と重なるため、摘採作業中に作業者が成虫を吸い込む等の不快感が問題となる。

6. 防除対策および注意

- (1) 発生地域からの苗木，生葉及び人等の移動による本種の拡散に注意する。
- (2) 幼虫は下位葉，成虫は新芽によく集まるので，定期的にこれらの部分の葉裏を観察し，早期発見に努める。
- (3) 本種の発生が見られた園では早期に薬剤による防除を行う。薬剤は第1表を参考にして葉裏によくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 越冬時期にマシン油乳剤による防除を行う。
- (5) 剪定した枝葉は本種の発生源となるため放置せず，土中に埋没する等適切に処理する。

7. 参考文献：佐藤安志（2011）植物防疫 65(3)：157-161.

上宮健吉ら（2011）植物防疫 65(9)：521-524.

第1表 主な防除薬剤

（2011年11月2日現在）

農薬名	薬剤の系統	使用時期	使用回数
トモノールS	マシン油	10～3月	
ラビサンスプレー	マシン油	10～3月	
アプロード水和剤	I G R	摘採14日前まで	2回
アプロードエースフロアブル	その他，I G R	摘採21日前まで	1回
コルト顆粒水和剤	その他	摘採7日前まで	2回
ダニゲッターフロアブル	その他	摘採7日前まで	1回
ハチハチ乳剤	その他	摘採14日前まで	1回
ハチハチフロアブル			

注1) 農薬を使用する際はラベルの記載事項を確認する。

注2) アプロード水和剤とアプロードエースフロアブルは同じ成分を含むため，使用回数の制限に注意する。



第1図 成虫の雄(左)と雌(右)



第2図 卵, 1 齡幼虫及び 4 齡幼虫(左:雄, 右:雌)



第3図 葉裏に寄生した幼虫

写真提供(第1, 2図):
久留米大学 上宮健吉博士